



西武
ライオンズ

菊池雄星

花巻はスポーツが発展する場所

「ふるさと復興応援ステージ」の開会に先立ち、両選手に花巻での思い出、市民へのメッセージなどを聞きました。

市長 花巻東高校の3年間、花巻での思い出を教えてください。

雄星 甲子園に出たことももちろんですが、普段の寮生活や苦しい練習など、仲間と過ごした時間が一番思い出に残っています。

大谷 僕も寮生活がすごく思い出に残っています。試合はあっという間に終わったという感じで、引退してから卒業するまで半年くらいあったので、その時間もすごく思い出にあります。

市長 2人とも、小学3年生から野球を始めたと聞きました。そのきっかけは何だったのでしょうか？

雄星 兄が野球をしていましたし、野球が盛んな地域だったので自然に始めていました。

大谷 父や兄が野球をしていたので、自然にキャッチボールを始めていました。その後、知り合いから誘われて野球チームに入りました。

市長 周りの環境が大きかったということですが、他に何かやりたいスポーツはありませんでしたか？

雄星 四つぐらいスポーツをやっていて選択肢はいっぱいありましたが、野球が一番好きだったので、野球を続けました。

大谷 水泳もやっていましたが、野球は本当に勝ちたいという気持ちが強かったです。

市長 今日のイベントには、市内や沿岸の野球チームの子どもたちがたくさん来てくれますが、これまでの経験からアドバイスをお願いします。

雄星 練習方法とかは人それぞれだと思いますが、やっぱり練習するしかないと思います。実は僕、練習が好きだと思ったことはないんです。でも、やらないとうまくなれないし、やりたくないことをいかにできるかが大事だと思います。

大谷 練習しかないですね。練習をしっかりとやれば、必然的にうまくなると思います。

市長 高校のころは一日どれくらい練習しましたか？

大谷 練習は授業が終わって夕方4時、5時ごろから始めていましたが、部活が終わってからも自主練習とかをしていました。みんなと違うところでどれく

日本ハム
ファイターズ

大谷翔平

スポーツのまちの印象を強めたい

らいてできるかが大事だと思います。

市長 練習の時間を見つけて、続けていくという強い意志は、うまくなりたいという点ですか？

雄星 試合に勝つために練習しています。特にピッチャーをしていると、ゲームセットの瞬間は最高に気持ちがいいんです。大きい大会になればなるほど、大歓声の中でできるという、そういう気持ち良さは勝ったときしか分からないので、そこを味わうために練習してきました。

市長 大歓声は聞こえるものですか？

大谷 僕は、流れている曲を口ずさむ癖があるんですが、よく聞こえています。特に札幌の試合でピッチャーをやっていると、スリーボールになってから応援の拍手が起こります。すごくありがたいし、頑張りたいと思いますね。

市長 甲子園でもそういうことがあったと思います。やはり甲子園は特別な場所でしたか？

大谷 甲子園は独特の雰囲気があり、試合をしていること自体が楽しかったですね。

雄星 でも、一緒に野球ですからね(笑い)。県予選のほうが大変だったと思います。やっぱり、花巻東という高校を選んだ以上は、甲子園に行かないといけないという思いが強くて、県で負けちゃいけないとずっと思っていました。

市長 甲子園に行って、あとは甲子園で力を出し切るということですね。

大谷 もうチャンスないです(笑い)。

市長 花巻市は、スポーツが盛んな地で、スポーツによるまちづくりに力を入れています。プロスポーツ選手の視点から、2人は花巻をどのように見えていますか？

雄星 花巻東高校の隣には総合体育館があったり、花巻球場があったり、県内で一番の環境の中で僕たちはやらせてもらい、そういう環境のおかげで勝たせてもらったと思っています。花巻は、この環境がどんどん大きくなっていて、野球だけでなくスポーツがますます発展する場所だと思います。

大谷 確かにいい環境が整っていると思います。花巻東の選手がもう1人プロに入ったので、みんなですますます盛り上げて、スポーツのまちの印象を強めていきたいです。

市長 最後に、花巻市民にメッセージをお願いします。

大谷 いろいろな球団のファンの方がいると思いますが、日本ハムも応援していただければうれしいです。花巻の方の期待に応えられるように活躍したいと思います。

雄星 西武ドームまで4時間で着きます。「岩手から来ました」と言われるのが一番うれしいので、ぜひ来てください。がんばります。



1 ピッチングのポイントを教える菊池投手



2 トークショーの司会を務めた長島三奈さん



3 抽選会では、両選手がユニフォームを脱いでプレゼントするサプライズも



4 イベント後に行われた医師などによる肩や肘の検診



5 大勢の子どもたちと記念撮影に収まる両選手



6 バットを手に打撃のこつなどを教える大谷選手

花巻東高校出身のプロ野球選手、菊池雄星投手(西武)と大谷翔平選手(日本ハム)による「ふるさと復興応援ステージ」が12月28日、総合体育館アネックスで開かれました。会場には、市民のほか東日本大震災で被災した釜石市と大槌町の野球チームの小中学生など計約3千人が来場。憧れの選手と過ごす夢の時間を楽しみました。

ステージ上で菊池投手がピッチング、大谷選手がバッティングのポイントを指導。スポーツキャスターの長島三奈さんが司会を務めたトークショーでは、両選手が少年時代や高校時代の思い出、2人そろって出場したオールスターでのエピソードなどを披露しました。

イベントではこの他、サイン入りのグラブやバットが当たる抽選会なども行われ、大いに盛り上がりました。



若葉野球クラブ
佐々木亮汰 さん
(若葉小3年)

とても勉強になった。肩や肘に痛みを感じる時は、お医者さんにみ診てもらおうことが大事だと思った。雄星選手、大谷選手みたいに活躍できるように頑張りたい。



岩手絆ガールズ
鎌田暉羅 さん
(宮野目小6年)

私も肘が痛くなるので、2人の話を聞いてとても勉強になった。バッティングの後に足がふらつくので下半身を強くしたい。2人に教わったことを家や練習でもやっていきたい。



花巻中学校野球部
吉田和磨 さん
(花巻中1年)

雄星投手が言った、「まずは練習を1回しようとする気持ちで始める。それが何百回の練習につながる」という言葉が印象的だった。これを実践し、ピッチャーとして先発できる選手になりたい。



△花巻での思い出などを語り合う菊池投手(左)と大谷選手(右)。聞き手の市長(中央)